

ヒトとブンカをつなぐ情報誌

HCF news

HAMAMATSU
CULTURAL FOUNDATION

VOL. **24**
2017
Spring

特集1 ヴァイオリニスト 諏訪内晶子インタビュー

特集2 ソプラノ歌手 デジレ・ランカトーレインタビュー

特集3 直木賞作家 恩田 陸インタビュー



公益財団法人
浜松市文化振興財団
Hamamatsu Cultural Foundation

VOL.24 | 2017 Spring

contents

- 04  [特集1]
ヴァイオリニスト
諏訪内晶子インタビュー
- 08  [特集2]
ソプラノ歌手
デジレ・ランカトーレ インタビュー
- 12  [特集3]
直木賞作家
恩田 陸 インタビュー
- 14  [楽器職人のいる街vol.6]
ネギドラム 根木 浩太郎さん
- 16  [のんびり、ゆっくり、みゅーじあむ vol.13]
電子楽器の原点 ～テルミンとオンド・マルトノ～
- 18  オークラクトシティホテル浜松
ホテルクラウンパレス浜松
- 20  [こだわりの食とともにコンサートの余韻を楽しむ。]
FONDUE de House Olivier
福三三 ～ふくみみ～
- 22  [コンサートにお出掛け、その前に…]
ヤマハミュージッククリエティング浜松店
- 24  [ちょっと気楽に、もっと音楽を]
Jazz in “B”
- 28  HCF Event Schedule
- 31  [お知らせ]
音楽図書館ナクソスのススメ

はじまりはいつも、
ヒトツの感動から。

文化や芸術を知るキッカケは、多種多様でおもしろい。

たまたまテレビで特集されていて、気になって出掛けたコンサート。
地元出身のダンサーが出るからと誘われ、初めて見たバレエ公演。
映画に出ているその姿がとても端正で、実際に見たいと思って
観劇した古典歌舞伎。
小説に感動し、その題材となった場所へ足しげく通う楽しみ。

ふとしたキッカケで文化や芸術に触れたことが、自分の見ていた
世界を今まで以上に広げ、生活を楽しくしてくれる。
気づかない所に感動の素は多く存在し、いつでも聴衆を温かく
迎えてくれる。最初のキッカケは何であれ、一度でもそれに
触れてみれば、その奥深さと幾重にも重なる人々の想いで時間が
満たされていく。

私たち浜松市文化振興財団は、時間を豊かに過ごせる文化や
芸術とともに、皆様のご来場をお待ちしています。
すべてのはじまりは、そう、ヒトツの感動から。

公益財団法人
浜松市文化振興財団
Hamamatsu Cultural Foundation

今月の表紙



浜松学芸高等学校
芸術科美術課程2年
大石 陽菜

作品名「春の訪れ」

つめたい雪がとけ、植物は新しい芽を出そう
としている。そんな春の情景を表現しました。
きっとまた、暖かい日射しを受けやわらかな
緑が広がっていく。そう思うと嬉しくなりま
す。新しい季節に密かな期待を込めて。

ヴァイオリニスト

諏訪内晶子

インタビュー

Akiko Suwanai, violin

世界に名だたる名演奏家たちの才能と溢れ出る美しい珠玉の名演奏の数々は、いつも私たちの心をとらえて離しません。6月からスタートする「アクト・プレミアムシリーズ」は、世界の第一線で活躍している名演奏家による年5回のコンサートシリーズ。残響2.1秒という優れた音響を誇るアクトシティ中ホールで開催されるプレミアムな新シリーズの幕開けを飾るのは、ヴァイオリニストの諏訪内晶子さんです。海外を拠点に活躍する諏訪内さんに、ヴァイオリンにかける思いなどを伺いました。

■現在はパリを拠点に活躍されていますね。長い海外生活においてもご自身を「日本人だなあ」と感じる瞬間はありますか？

私は、日本で高校を終えてから留学しています。帰国子女ではないので、どんなときでも日本人ということを感じながら過ごしています。

■日本に帰国する際に楽しみにしていることはありますか？

日本には美しい四季があります。それぞれの季節の素晴らしさに触れられることを嬉しく思います。

また、演奏旅行の際に訪れる地が特色豊かな事は楽しみのひとつですね。

■諏訪内さんがヴァイオリニストとして生きていく、と決めたのはいつ頃ですか？また、多くのオーケストラと共演・録音をされていますが、特に印象に残っている演奏や共演者がいらっしゃるようでしたら教えてください。

1990年、18歳の時にチャイコフスキー国際コンクールで優勝したことがきっかけとなりました。



チャイコフスキーコンクール・セミファイナルの模様

それ以来、素晴らしい演奏家の方々との出会いが多くあり、関わらせていただいた演奏のすべてが想い出深いものです。これらを通じて得た経験は、私にとって大変貴重な財産であり、これからもひとつひとつの演奏会を大事にしていきたいと思っています。

■「国際音楽祭 NIPPON」をプロデュースされるなど、演奏以外にもご活躍ですね。今年で第5回となるこの音楽祭にはどんな思いで関わられているのでしょうか？

思いは、立ち上げた当初と変わりません。1990年のチャイコフスキー国際コンクール優勝を機に、



諏訪内晶子 すわない あきこ

1990年史上最年少でチャイコフスキー国際コンクール優勝。これまでに小澤征爾、マゼール、デュトワ、サヴァリッシュらの指揮で、ボストン響、フィラデルフィア管、パリ管、ベルリン・フィルなど国内外の主要オーケストラと共演。エリザベート王妃国際コンクールヴァイオリン部門審査員。2012年より「国際音楽祭 NIPPON」を企画制作し、同音楽祭の芸術監督を務めている。デッカより14枚のCDをリリース。使用楽器は、日本音楽財団より貸与された1714年製作のストラディヴァリウス「ドルフィン」。



国際音楽祭NIPPONより



©大杉隼平

©大杉隼平

私は恵まれた環境の中で、勉強と演奏活動を続けてきました。「今、私に音楽家として何かできることはないだろうか」と考えていた折、様々な出会いや出来事がありました。それまでは、主に国外を中心の活動でしたが、「日本の社会や音楽文化に少しでも貢献して恩返しをしたい」という気持ちが固まり、そこから多くの方のご協力をいただいて結実したのが、4つの柱を核とする「国際音楽祭NIPPON」なのです。

今回ご参加いただくボリス・ベレゾフスキー氏、マリオ・ブルネロ氏は共に長年の友人であり、共演を重ねてきた、チャイコフスキー国際コンクールにゆかりのあるアーティスト（それぞれ1990年ピアノ部門優勝、1986年チェロ部門優勝）です。

■今回共演するボリス・ベレゾフスキーさんの印象や魅力を教えてください。

共演は20年近くになりますが、いつも予測不可能です（笑）。そこが、また彼と共演することの楽しみのひとつです。今回もどんな音楽を二人で創りあげられるか、今からとても楽しみにしています。



©Yuri Bogomaz

ボリス・ベレゾフスキー

■現在お使いの楽器は、世界3大ストラディヴァリウスのひとつ「ドルフィン」（1714年製）ですね。諏訪内さんにとってどんな存在ですか？

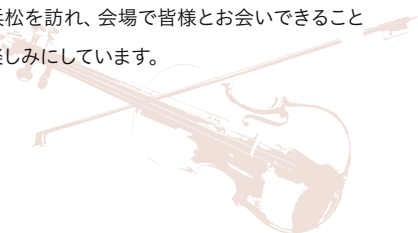
ドルフィンを弾かせていただくのは今年で17年目になります。毎日貴重な経験を重ねることができ、たくさんのことをこの楽器に教えられています。「楽器と過ごす」ということは、同時に「個性豊かな楽器を通じて濃密な年月を重ねること」と感じています。

■休日の過ごし方や気分転換の方法などを教えてください。

次の演奏会へ向けてコンディションを整えながら過ごします。ベストな状態で演奏会に臨めるよう、日々の生活も気を付けています。

■最後に、浜松のファンに向けてメッセージをお願いします。

再び浜松を訪れ、会場で皆様とお会いできることを大変楽しみにしています。



HAMAMATSU
ACT CITY

Premium Series

アクト・プレミアム・シリーズ 2017

～世界の名演奏家たち～

2017.6月27日(火)～2018.1月23日(火) 全5公演

アクトシティ浜松 中ホール 19:00開演

Vol.1 2017年 6月27日(火)
諏訪内晶子&ボリス・ベレゾフスキー
【ヴァイオリン】 【ピアノ】
 チャイコフスキー国際コンクール優勝者同士の夢の共演！




©吉田民人 ©Yuri Bogomaz

Vol.2 2017年 10月4日(水)
ラファウ・ブレハッチ
【ピアノ】
 2003年浜松最高位、2005年ショパン国際ピアノコンクール優勝！
 11年ぶりの浜松凱旋公演！



©Marco Borggreve

Vol.3 2017年 11月27日(月)
ラデク・パボラーク
【ホルン】 & **吉野直子**
【ハープ】
 世界一のホルン奏者と世界的ハープ奏者による豪華共演！




©Lucie Cermakova ©Akira Muto

Vol.4 2017年 12月5日(火)
ゲヴァントハウス弦楽四重奏団
 脈々と引き継がれてきた伝統の響き、世界最古のカルテット！



©JENS GERBER

Vol.5 2018年 1月23日(火)
チョ・ソンジン
【ピアノ】
 2009年浜松、2015年ショパン国際ピアノコンクール優勝！
 今や世界のピアノ界で最も注目されるピアニスト！



©Harald Hoffmann/DG

●入場料(全席指定/税込) [Vol.1・2・4] S席 | 6,000円 A席 | 5,000円 学生席 | 1,000円 [当日指定・24歳以下]
 [Vol.3・5] S席 | 5,000円 A席 | 4,000円 学生席 | 1,000円 [当日指定・24歳以下]

プレミアム・パスポート(全5公演通し券)は完売御礼[S・A席共] ●お問合せ:文化事業課 TEL.053-451-1114



ソプラノ歌手

デジレ・ランカトーレ

インタビュー

DESIREE RANCATORE

2017年6月14日、アクトシティ大ホールにて開催される「パレルモ・マッシモ劇場オペラ」。ヨーロッパで3番目の大きさをもつイタリアの名門劇場オペラによる浜松公演です。演目は悲哀の物語『椿姫』。ドラマティックなストーリー展開はもちろん、有名なアリアの数々やきらびやかな衣装、豪華な舞台セットなど、見どころ満載です。主役のヴィオレッタ役を務めるデジレ・ランカトーレさんにお話を伺いました。



マッシモ劇場 ©rosellina garbo

■シチリア島・パレルモのご出身ですね。パレルモはどのような都市ですか？

芸術と文化が豊かな素晴らしい都市です。何世紀にも渡る支配者達の文化と対話をしながら平和的に共存してきました。温暖で素晴らしい気候と美しい海があり、人々はオープンでいつもフレンドリーです。

■出身地にあるパレルモ・マッシモ劇場による来日公演ですが、特別な想いはありますか？

もちろんです!! 日本に来るのは大きな喜びです。私は故郷にあるこの劇場で、人として、そして歌手として成長してきました。「ランメルモールのルチア」で初来日した2007年から、日本は私にとって特別な国であり、その美しい日本に戻ることをとても嬉しく思います。ジェルモン（アルフレードの父）役のセバスティアン・カターナさんとは初共演、アルフレード役のアントニオ・ポーリさんとはベネチア・フェニーチェ劇場のニューイヤーコンサートでご一緒して、とても素晴らしかったです！

■オペラ歌手を目指そうと思ったきっかけは？
あなたをオペラに導いた歌手はいるのですか？

音楽院でヴァイオリンを勉強していた15歳の頃、

必修科目として合唱を学んだのですが、そこで「歌う」ことに恋に落ち、一目ぼれで歌手になろうと決めました！また、歌手である私の母にも大きな影響を受けました。人間として、歌手として、私を二度も生み出してくれた恩師です。また、著名なイタリア人歌手ルカ・カノニチの紹介で20年以上に及ぶ私のキャリアが始まったのです。

■本番前にいつも行う習慣などはありますか？

Yeees！（もちろん！）たくさん祈り、リラックスした音楽に耳を傾けて、集中するために瞑想しています。

■今までに演じた役で、お好きな役や印象に残っている役は何ですか？タイトルと役名、その理由を教えてください。

“ラクメ”は私が大好きな役で、幸運なことに異なる3つの演出作品に出演することができました。他には「ランメルモールのルチア」の“ルチア”や「清教徒」の“エルヴィラ”なども好きですが、こよなく愛しているのは間違いなく今回演じる「椿姫」の“ヴィオレッタ”です。2013年にモンテカルロでこの役を初めて歌いましたが、生涯忘れられません。



イタリア カルロ・フェリーチェ劇場「椿姫」より（アルフレード：ジュゼッペ・フィリアノーティ）

そして、オペラ「リゴレット」で“私の父”として多くの一流歌劇場で度々共演したレオ・ヌッチ（バリトン）とともに、再来日できることを大変嬉しく思っています。

■ヴィオレッタ役を演じるにあたって、心がけていることや伝えたいことがあれば教えてください。

ヴィオレッタは性格も声も完成されたキャラクターです。病や彼女を打ちのめす様々な出来事にも負けない威厳など、彼女の強さを表現したいです。ヴィオレッタは放蕩な生活を送っているにもかかわらず、強くて大いに価値のある女性です。また、脚本も素晴らしいということを強調したいですね。感情がある一つ一つの言葉が、聞いてくださる皆さんの心に届くはず。そして、この絶望的な恋物語を聴く皆さんの涙を誘うことでしょう。

■歌手として日常生活で何かにかけていることはありますか？

訓練は歌手としての基礎です。そして、よく食べ、

よいバランスを探るため体の調子を整えること。

皆さんが思う以上に難しいことなのです。

■休日はどうに過ごしているのですか？

読書や勉強、デザイン、それから愛する人達と過ごしています！

■何度か日本公演をされていますが、印象を教えてください。

日本は大好きで、住みたいくらいです！食文化やおもてなしの心も好きで、友人やファンのために日本を訪れるのがいつもとても楽しみです。

■浜松のファンに向けてメッセージをお願いします。

浜松の方はきっとこのオペラを愛してくださると思います。素晴らしいお客様とお会いできることを楽しみにしています！



知っておこう椿姫の“みどころ” *La traviata*



主な登場人物

ヴィオレッタ：パリの高級娼婦（ソプラノ）

アルフレード・ジェルモン：南仏貴族の青年（テノール）

ジョルジョ・ジェルモン：アルフレードの父親（バリトン）

フローラ：ヴィオレッタの友人、高級娼婦（メゾ・ソプラノ）

ドビニー公爵：ヴィオレッタのパトロン（バリトン、バス）

あらすじ

パリの裏社交界。高級娼婦のヴィオレッタ（椿姫）は、青年貴族のアルフレードから誠実な愛の告白を受け、戸惑いながらも彼の愛に答えるが、青年の父・ジェルモンは家名のため彼女に息子との永遠の決別を求める。

ヴィオレッタは、心中の苦悶を隠して自ら身を引く決意をし、裏社交界へと戻る。

その後、何も知らないアルフレードは怒り、彼女を公の場で罵倒する。

心身を疲弊したヴィオレッタに、静かにしのびよる病魔。

病に倒れた彼女のもとに、全てを知った彼が駆け付けるが、時すでに遅く…。

有名なアリア

乾杯の歌〈アルフレードとヴィオレッタ〉

不思議だわ！～ああ、そはかの人か～花から花へ〈ヴィオレッタ〉

僕の燃える心の〈アルフレード〉

プロヴァンスの海と大地〈アルフレードとジェルモン〉

パリを離れて〈アルフレードとヴィオレッタ〉



© Allegri

デジレ・ランカトーレ

イタリア、パレルモ生まれ。18歳で、ザルツブルク音楽祭（フィガロの結婚）でオペラ・デビュー。その後、英国ロイヤル・オペラ、ウィーン国立歌劇場、ローマ歌劇場、英国ロイヤル・オペラ等、ヨーロッパの主要オペラ・ハウスに次々と出演。数々の世界の検舞台での活躍を経て、2004年ミラノ・スカラ座改修後のこけら落とし公演に、ムーティの指名で主役に抜擢され、大成功を収める。聴衆と多くの批評家に絶賛を浴び、彼女のオペラ歌手としての国際的地位を不動なものとした。現在もスカラ座、ボローニャ歌劇場、チューリッヒ歌劇場、ウィーン国立歌劇場等に常時出演。可憐な容姿と高度なテクニックを持った歌唱で多くの日本の聴衆を虜にしている。椿姫においては、最後のシーンに定評を持っており、必見の舞台。

パレルモ・マッシモ劇場「椿姫」

2017年6月14日（水）18:30開演

●アクトシティ浜松大ホール

●入場料（全席指定/税込）

SS席：24,000円 S席：20,000円 A席：15,000円

B席：10,000円 C席：7,000円

シニア席：10,000円（70歳以上・当日指定S席相当）

学生席：1,500円

●お問合せ：文化事業課 TEL.053-451-1114

恩田 陸

直木賞作家 RIKU ONDA
インタビュー



浜松コンクールに4回も通うことになるとは思っていませんでした(笑)。

恩田 陸

2月10日 幻冬舎会議室にて 文・撮影／(公財)浜松市文化振興財団

1月19日、第156回直木三十五賞が発表され、恩田陸さんの『蜜蜂と遠雷』(幻冬舎)が受賞しました。恩田さんはこれまで本屋大賞をはじめ多数の文学賞を受賞。直木賞はノミネート6回目での受賞となりました。受賞作『蜜蜂と遠雷』は浜松国際ピアノコンクールをモデルとした、ある地方都市で開催される『芳ヶ江国際ピアノコンクール』を舞台とした青春群像小説です。受賞から約3週間、ご多忙の恩田さんにお話を聞くことができました。

■なぜ、ピアノコンクールをテーマに？

「次の作品は音楽小説を」と構想していました。私は子供の頃からピアノを習っていましたし、今でもピアノ曲を聴くことが一番好きなので、ピアノを題材にしようと。そして、音楽コンクールを舞台としたドラマ性豊かなストーリーを書こうと考えたのです。

■「浜松国際ピアノコンクール」に興味を持ったきっかけは？

ラファウ・ブレハッチさんが第15回ショパンコンクール(2005年)で優勝した時のエピソードからです。彼は前々年の第5回浜松コンクールに出場した時は全くの無名で、書類選考で落選。その後オー

ディションから勝ち上がって最高位(1位無しの第2位)を受賞し、さらには世界最高峰のショパンコンクールでも優勝してしまったという話を聞き、「これは面白い」と思いました。

■浜松での取材はどのように？

第6回(2006年)から第9回(2015年)まで4回取材しました。取材といっても、審査員や出場者に話を聞いたり舞台裏を見たりするのではなく、期間中の通し券を購入して滞在していました。一聴衆としてほぼ毎日、ずっと演奏を聴くというスタイルです。中ホール、大ホールとも場所にこだわらず色々な座席で聴きましたね。食事をしたお店で、当時審査委員長だった中村紘子さんをお見かけしたこともあります。審査員の先生方は長時間本当に大変だと思います。

■構想から12年、取材11年、執筆7年とお聞きしました。

構想してから完成までとても長い時間がかかりました。もっと早く書き上げるつもりだったし、3年毎に開催の浜松コンクールに4回も通うことになるとは思っていませんでした(笑)。それでも、時間をかけた甲斐があったと感じています。何回も通うことで分かってきたもの、見えてきたものもありますし、耳も肥えたと思います。



『蜜蜂と遠雷』(幻冬舎)



文藝春秋「オール讀物」直木賞受賞記念グラビアの撮影のためアクトシティ浜松を訪れた恩田陸さん。

■取材を通して印象に残った出場者は？

第7回コンクールに出場したチョ・ソンジンさん。当時15歳で最年少でしたが、とても老獪な音を出していました。「この子が優勝しても驚かないな」と思っていたら本当に優勝してしまったのです。それから第8回で第2位となった中桐望さん。彼女が本選で弾いたブラームスのコンチェルトは本当に素晴らしかったですね。

■次回の第10回コンクールにも、ぜひおいでください。

ありがとうございます。楽しみにしています。

受賞会見で「読者がそれぞれ自分の創造する音を鳴らせるという意味では、音楽と小説は相性がいいのでは」と語った恩田さん。『駅前の複合施設』『入口がガラス張りの中ホール』『ホール地下のインド料理店』など、アクトシティを連想する場面も多く登場します。ピアノやクラシックがお好きな方にも、あまり馴染みが無いという方にもオススメの一冊ではないでしょうか。

恩田 陸 おんだりく

1964年、宮城県生まれ。1992年「六番目の小夜子」でデビュー。2005年「夜のピクニック」で第26回吉川英治文学新人賞および第2回本屋大賞を受賞。2006年「ユージニア」で第59回日本推理作家協会賞を受賞。2007年「中庭の出来事」で第20回山本周五郎賞を受賞。著書多数。

ネギドラム 根木 浩太郎さん

クラシックや吹奏楽、ロックなど、音楽のジャンルは数多くありますが、打楽器はどのジャンルでも活躍する重要な存在です。今回お話を伺ったのは打楽器の中でもドラム（太鼓）を専門に製作する根木浩太郎さん。ドラムの音作りに対する熱い思いが伝わってきました。

浜松市内には多くの楽器産業が集まっていますが、高い技術力を持った楽器職人も多くいるのをご存知でしょうか？
本シリーズでは、楽器産業のこれまでを支え、そしてこれから見つける職人たちを紹介し、浜松市のさらなる発展の芽を探ります。

ドラムの音に囲まれて

楽器製造会社に勤めていた先代の父が、東京の工場を間借りしてスネアドラムを作り始めたのが始まり。1962（昭和37）年に創業し、その後、父の故郷である浜松市に工場を構えて現在に至ります。浜松市に移った理由としては、工場を建てる土地があったことももちろんですが、その頃から楽器製造の中心地だった浜松市では部品が手に入りやすかったからだと思っています。私は生まれた時からずっとドラムの音に囲まれて育ったおかげか、「どうすれば良い音ができるのか」が自然と身についていました。当時は漠然としていた音の作り方が、お客様と接することで段々と理論化されていきました。

演奏者のイメージを音に

父が楽器を作っていた時代は製造者主体で、言うなれば「トップダウン」。製造者が作りたい楽器



平らな木材を円柱の胴に加工する機械。胴の塗装も行う。



スネアドラムの胴にやすりをかける。見えない部分だが重要な作業。

を作っていました。今は時代が変わり、楽器作りの主役は演奏者になりました。演奏者が自分を表現するための楽器や音を、製造者が実現させるのです。うまくサンプルがあって部品の組み合わせを変えるだけの場合もあれば、ゼロから音を作り出すことも。言葉で伝えられない音のイメージを知る一番の方法は、演奏者の人柄を知ることです。演奏者によってイメージの伝え方が違うので、時には言葉と実際に出来上がった音が矛盾することもあります。私の立場は、演奏者の言葉を音にする「翻訳家」みたいなものだと思います。

いますが、演奏者には「忘れて帰ってください」と伝えてあります。あまりそれを重視せず、演奏者の感覚を大切にしてほしい。それをサポートするのが私の役目なのです。
昨日楽器を始めた人でもプロの演奏者の人でも、依頼者が誰であろうと最も大切なのはその楽器をどう使うかということであって、楽器作りにおいて製造者が主役になってはいけません。その思いを忘れずにこれからもドラムと向き合っていきたいと思います。

音づくりのサポート役として

楽器製造に終わりが無い以上、人の感覚から離れてはいけないと思います。楽器製造における理屈は手段であって、それが絶対であってはいけません。出会った演奏者の感覚を常に一番新しいものとして受け止めます。楽器には説明書を付けて



根木 浩太郎 ねぎ こうたろう

昭和44年生まれ。浜松市出身。大学卒業後、先代の父が創業したネギドラムを継ぎ、スネアドラムやドラムセットなどの製造を行う。高い技術と手厚いサポートで、国内外で活躍する多くのドラマーから信頼を得ている。プロ講師によるドラム教室も運営。

ネギドラム
浜松市南区米津町979
TEL.053-441-2831
HP <http://www.ndsg.co.jp/>



左／「Negi Drums」のロゴが入れた色とりどりのスネアドラム。



右上／積み上げられた塗装前の胴（シェル）。
右下／細かな部品の組み立ては手作業で行います。

電子楽器の原点 ～テルミンとオンド・マルトノ～

浜松市楽器博物館館長 嶋 和彦

昨年12月16日に、ユネスコ創造都市ネットワークの催しとして、浜松市主催による『サウンドデザインシンポジウム in 浜松2016』が、アクトシティで開かれました。『音楽』という分野にとらわれず、メディアアートなど他の芸術分野や医療・福祉をはじめとした他分野での音の活用事例などを取り上げることで、「音」を機軸とした新たな取り組みに関する多様な企業・団体・人材の掘り起こしと参画、連携強化を図る』というのが目的です。半日にわたる様々な分野からの発表を通じて、多くの人が「音」への認識を新たにされたことでしょう。

「サウンドスケープ」という言葉が、もう何年も前から存在します。これは「音 = sound」と「風景 = landscape」をあわせた言葉で、「音風景」と訳されます。音を身の回りから切り離されたものと考えないで風景として捉え、私たちの生活とどのような関係があるかを考えるために提唱された言葉です。日本でも各地の有名な音を選ぶ取り組みがありました。環境省が1996年に発表した「日本の音風景100選」がそのひとつで、身近なところでは、「遠州灘の波小僧」が選ばれています。

「サウンドスケープ」は既に存在する音に対する取り組みですが、「サウンドデザイン」は、人間が能動的に、様々な分野で音を創り積極的に

使っていこう、というものです。音を「聴いて楽しむ」から、音を「利用して何かを行う」ことへの新たな創造活動と言えましょう。

さて、大昔から存在する自然界や人間界から出る音に加えて、20世紀にはそれまでなかった新しい音が生まれました。電気の音、電子の音です。無線機やラジオのピーとかブーとかいう「雑音 = ノイズ」がそれですが、当初は雑音とみなされていた音が、そのうちに音楽を奏するために使われるようになりました。電子楽器の登場です。シンセサイザーや電子オルガン、キーボード、パソコン、いわんや携帯電話まで、今や私たちは、電子回路で音を出して聴き、音楽を作ることに慣れ親しんでいます。

これ以上どのような進歩をするのかかわからない電子楽器ですが、最初のものといえば、ロシアの「テルミン」とフランスの「オンド・マルトノ」です。実用的電子楽器の原点であります。

テルミンは、音響



テルミンは時代により種々の型があるが、これは最も有名なアメリカRCA社の型。



特別展会場でテルミンを演奏する竹内正実さん（2016.8月 楽器博物館）



レクチャーコンサートでオンド・マルトノを演奏するハラダタカシさん（2003.6月）

物理学者のレフ・テルミン博士が1920年に発明しました。特徴は二本のアンテナに手を近づけたり遠ざけたりすることで、音量と音程をコントロールしてメロディを奏でること。

オンド・マルトノは、パリの作曲家でチェリストでもあったモーリス・マルトノが1928年に発明。オンドとは仏語で電波の意味。鍵盤でも演奏しますが、実は写真では見えないのですが、鍵盤の手前にワイヤーがあり、それを操作して音程を無段階変化させることができます。弦や銅鑼を使った特殊なスピーカも特徴で、その音色は独特です。

この2つの電子楽器は、和音は出ません。単音しか出ないのですが、しかるべき演奏者の手に



オンド・マルトノ
ワイヤーに付いたリングに指を入れ、左右に動かして音の高さを変える。

かかると、チェロやヴァイオリンのような演奏になります。大作曲家メシアンは、「トゥランガリーラ交響曲」でオンド・マルトノを使っています。

テルミンについては、昨年の夏、浜松在住のテルミン奏者竹内正実さんの監修により、楽器博物館で特別展を開催しました。ロシアからテルミン博士の娘さんとひ孫さんが初来日されて博物館でもレクチャーコンサートを開催しました。

オンド・マルトノはパリ音楽院でも教えられており、日本にも世界的奏者ハラダタカシ氏ほか何人かの演奏者がいらっしやいます。

楽器博物館では過去に何回かテルミンやオンド・マルトノのコンサートを行っていますが、今年の5月3日には音楽工房ホールにおいて、メシアンのオンド・マルトノ6台を使う曲「美しい水の祭典」を演奏します。めったに聴く機会のない貴重なコンサートです。ぜひお越しください。

浜松市楽器博物館

開館時間 9:30-17:00

休館日 毎月第2・4水曜日（祝日の場合は翌日、8月は無休）
12/29-1/3、施設点検等の日

観覧料 大人800円 高校生400円
中学生以下・70歳以上・障害者無料

TEL.053-451-1128 HP <http://www.gakkihaku.jp>



「月替わりシフォンケーキ」「月替わりロールケーキ」 各1,000円(税込) ※商品によって金額が異なる場合がございます。
(写真は3月「さくらシフォンケーキ」、「はちみつレモンロールケーキ」)

アクトプラザ2F「ホテルオークラベーカリー&カフェ」では、人気の焼きカレーパンやラスク、紅ほっぺ苺のショートケーキなどのほかに、月のおすすめパンや季節のフルーツを使用したケーキが並んでいます。その中から今回おすすめするのは、1月より新しく登場した「月替わりシフォンケーキ」と「月替わりロールケーキ」。毎月おすすめのシフォンケーキとロールケーキを種類ずつご用意いたします。

3月は、“さくらシフォンケーキ”と“はちみつレモンロールケーキ”を販売。ピンク色の生地と生クリームが可愛い“さくらシフォンケーキ”は、ふわりと香る桜が春の訪れを感じさせる見た目も華やかなケーキです。また“はちみつレモンロールケーキ”は、はちみつを練り込んだ優しい甘さの生地で生クリームとレモンクリームを巻き込んだ一品。中にはグレープフルーツが入っているのでさっぱりとした後味をお楽しみ頂けます。

4月以降も季節にあわせてバラエティ豊かなそれぞれのケーキが登場します。ご家族のだんらんのひと時や、ちょっとしたプレゼントにもおすすめです。是非一度、ご賞味ください。



アクトプラザ2階
ホテルオークラベーカリー&カフェ

ホテルオークラ ベーカリー&カフェ

浜松市中区板屋町111-2 アクトプラザ2階
【営業時間】10:00～19:00
【お問い合わせ】053-459-0729



直虎公の出世点心 直虎餃子 1箱 15個入り 1,080円(税込) ※冷凍

JR浜松駅前のホテルクラウンパレス浜松の中国料理 鳳凰では、直虎公に因んだ新しい浜松のお土産を考案致しました。

平成28年度 厚生労働大臣表彰「現代の名工」に選ばれた料理長岡部悟が薬膳の理念から直虎公の物語を紐解き食材を厳選。精進料理の伝統を活かしたクワイなどの野菜、井伊家の家紋の由来になった橘になぞらえた蜜柑パウダー、薬膳食材ウコンを配合し黄金色の餃子に仕上げました。

遠く戦国時代に想いをはせ、美味しくて身体に優しい浜松餃子をお楽しみください。

直虎公の出世点心 直虎餃子 1箱 15個入り
1,080円(税込) ※冷凍



ホテルクラウンパレス浜松14階
中国料理 鳳凰

中国料理 鳳凰

浜松市中区板屋町110-17 ホテルクラウンパレス浜松 14階
TEL.053-454-0632
【営業時間】ランチ/11:30～14:30(ラストオーダー 14:00) ディナー/17:30～21:30(ラストオーダー 20:30)



オイルフォンデュ 1,980円（税抜）。パケット・野菜はおかわり自由（90分間）。



「職人の刺し盛（大・4～5人前）」5,980円（税抜）。人数に合わせた調整も出来ます。

FONDUE de House Olivier（フォンデュ・デ・ハウス オリヴィエ）

白を基調とした可愛い外観が印象的な『FONDUE de House Olivier（フォンデュ・デ・ハウス オリヴィエ）』は、浜松初のフォンデュ専門店。店内は北歐風のインテリアでまとめられ、白木のぬくもりを感じながら家庭的な雰囲気の中でお食事を楽しめます。

看板メニューは何と言っても、店名にもなっているオイルフォンデュとチーズフォンデュ。オイルフォンデュに使用するオリーブオイルは、オーナー自らが選抜いた小豆島産のエキストラヴァージンオイル。20～30種類の新鮮な野菜や魚介類、ソーセージなどを自分で素揚げして、お好みのソースでいただきます。フレッシュな香りと風味を味わえるオリーブオイルは、ビタミンやポリフェノールなどを豊富に含み、とってもヘルシー。女性に嬉しい美容効果も期待できるのだとか。具材に使う野菜は、浜松産の旬のものにこだわって仕入れているとのこと、食材そのものの味を味わえるのは、素揚げならではの。チーズ好きにはたまらないチーズフォンデュは、熱々トロトロのチーズと具材のハーモニーを堪能できます。

アルコール類も豊富にご用意しています。店長おすすめは「オイルフォンデュには白ワイン、チーズフォンデュには赤」とのことなので、是非ともお試しを。店内にはオープンテラス席もあり、夜空を眺めながらガーデンパーティ気分を味わえます。夏はもちろん、冬でも暖房器具の貸し出しがあるので安心です。美味しくてヘルシーなフォンデュは、女性だけでなく男性もお気に召すこと間違いなし。是非気の合う仲間と一緒に訪れてみてください。



店長の小野 猛さん

若きイケメン店長の小野さんは、オーナーとの運命的な出会いをきっかけに、料理の道に入られたのだそう。たまたま訪れたあるお店に居合わせたオーナーの人柄に惚れ込んだとの事で、何ともドラマチックです。「お客様の笑顔が元気の源。仲間とワイワイ囲むフォンデュは最高です。是非お気軽にご来店を！」と爽やかな笑顔で語ってくださいました。



FONDUE de House Olivier
（フォンデュ・デ・ハウス オリヴィエ）

浜松市中区肴町 316-45

TEL.053-522-8884

【営業時間】

18:00～翌1:00（LO24:30）

※金・土・祝前日は18:00～翌2:00（LO1:30）

【定休日】 月曜日

福三三 ～ふくみみ～

2016年5月にオープンしたばかりの「福三三」は、漆喰の白壁が目印。「静かな空間でゆったりと、時間を気にせずに過ごしてもらいたい」という思いから、多くの飲食店がひしめき合う浜松駅北側ではなく、あえて南側にお店をオープン。基本的には席の時間制はないようで、落ち着いて食事を楽しめる心遣いを感じられます。

個室や掘りごたつの席が中心の店内でいただくのは、刺身や炭火焼を中心とした和食料理。自慢の刺し盛は、地元に限らず全国から厳選した旬で美味しいものを。その他にも静岡・有東木産のわさびや県内農園からの新鮮な野菜など、オーナー自らがこだわって選抜いた食材を楽しめます。焼き物では和歌山・紀州備長炭を使用し、ブランド銘柄のお肉を風味豊かに仕上げます。日本酒は多くの銘柄が取り揃えられ、少しずつ楽しめるような工夫も。飲み比べてお気に入りの日本酒を見つけてみるのもいいですね。

1周年に向けて今後は四季のメニューも登場します。春先は貝類がおすすめということですので、お刺身はもちろん、料理長の戸田さんによる多彩なアレンジも楽しみます。

「良い品質のものを、適正な価格で」というのがモットー。少し敷居が高く感じるかもしれませんが、アットホームな雰囲気の中で、笑顔のスタッフが出迎えてくれます。コンサートの余韻を静かに語り合える、そんな大人にぴったりなお店です。



調理長の戸田 貴彰さん

代々が料理人の家系という戸田さん。ご両親の勧めもあり進んだ料理の道ですが、戸田さん曰く「和食の魅力は美しさ」とのこと。その言葉通り、料理は美しい盛り付けのものばかりでした。お忙しい毎日ですが、もしまとまった休日があれば暖かい沖縄でゆっくりしたいそうです。



福三三 ～ふくみみ～

浜松市中区砂山町 360-7

TEL.053-450-6888

【営業時間】17:00～24:00

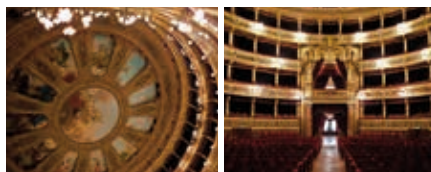
【定休日】 不定休

「マッシモ劇場」

ヨーロッパの3大歌劇場をご存じでしょうか？ パリのガルニエ宮のオペラ座、ウィーンの国立歌劇場に次いで今回ご紹介するマッシモ劇場が3番目に大きい歌劇場です。

マッシモ劇場はイタリアのシチリア島にあるパレルモ市街に建っています。この劇場はパレルモ市長の提唱で1864年に設計のコンテストが開かれ、優勝した地元建築家ジョバンニ・パッティスタ・バジレーが設計、1875年に着工されました。ただ、建設が33年というあまりにも長期に渡ったため、彼の息子のエルネスト・バジレーが1897年に完成に導いています。建築資材から内装に至るまでの殆どをシチリア産で賄っており、当時の経済的な発展と期待の大きさがうかがえます。

イタリアの歌劇場にしては珍しい立派な外観で、威風堂々とその存在感を示して建っています。外観は壮大な新古典主義様式、内部は柔らかな曲線が特徴のアールヌーヴォー様式と異なる様式で優美な姿をみせています。内部は馬蹄形で、舞台は客席と同面積の奥行をもつほどの大きさというのがこの劇場の特徴です。ちなみに奥行は28.58m（ウィーンが25m、パリが26.3m）、奥舞台を含めると、なんと52mもあるそうです。昔「アイダ」が上演された時、本物の象が登場したとのこと。また、大きながら音響も素晴らしいと言われています。劇場内の壁にはすべて金箔が施され、座席はワインレッドの椅子、天井には大きな円形



内観 天井 ©rosellina garbo 客席 ©rosellina garbo

のフレスコ画と贅沢な空間に仕上げられています。

壮大な正面の階段は映画「ゴッド・ファーザー Part3」の撮影でも使用されました。劇場の名を有名にした印象的な場所です。

実はこの劇場、1974年から24年間もの長い間、修復のため閉鎖されていました。実際には資金不足などもあり、殆ど手をつけられずに見捨てられた状態だったのだそうです。1998年、こけら落とし公演「アイダ」で完全復活。ホセ・クーラがパロッティの代役として登場し話題を呼びました。それ以降は毎年様々なプログラムが組まれていて、イタリア内外から著名な歌手が客演しています。

今年6月には約10年ぶりに日本への2度目の引越し公演が開催されます。演目はイタリアオペラ極めつけの人気作「椿姫」です。本場のオペラを浜松で楽しんでみませんか？

〔3F 鍵盤・弦楽器売場〕 田端 ひろこ

ヤマハミュージックリテイリング 浜松店

10時30分～19時 〔定休日〕水曜日
〒430-0933 静岡県浜松市中区鍛冶町321-6
〔2F 楽譜・CD売場〕 TEL.053-454-4419
〔3F 鍵盤・弦楽器売場〕 TEL.053-454-2770

店員さんに聞きました！ おすすめCDのご紹介

ヴェルディ：歌劇「椿姫」

サー・ゲオルグ・ショルティ（指揮）
アンジェラ・ゲオルグユー（ソプラノ）
UCCD-4718 ¥2,880（税込）



19世紀頃のフランスを舞台に繰り広げられる、貴族相手の高級娼婦ヴィオレッタと、パリに滞在中の旧家の息子アルフレードとの恋物語が、今回ご紹介するオペラ「椿姫」です。アルフレードの父親の反対や、誤解による壮絶な別れを乗り越え再び思いを重ねる二人ですが、その矢先、重い病の為ヴィオレッタが亡くなり話が終わるという悲劇の物語です。

実はこの作品「椿姫」にはモデルがいました。オペラの原作となった戯曲の著者、デュマ・フィスの元恋人、マリ・デュプレシです。彼女は10歳で母を亡くしパリへ出た後、持ち前の美貌を活かし貴族の愛人になりました。そこで彼女は教養を身に付け、パリでも評判の高級娼婦となったのです。しかし生来の虚弱体質などにより23歳の若さでこの世を去りました。「椿姫」はこのマリとデュマ・フィスとの恋を元に描かれた作品と言われています。

ヴェルディがこのオペラ作品を書いた頃、元となったデュマ・フィスの戯曲「椿姫」が上演され評判となっていました。劇場から新作オペラを依頼されたヴェルディがこの戯曲を観劇してオペラ化したと言われています。さらに、ヴェルディは最初の妻を亡くした後、元ソプラノ歌手のストレッパーニと恋人になりました。しかし彼女の恋愛遍歴や当時の社会通念により、亡き妻の父親や若い頃の恩人などから彼女との仲を良く思われていませんでした。そんな中で出会った「椿姫」の内容に心を打たれたとも言われています。

日本では「椿姫」のタイトルが定着していますが、ヴェルディはこの作品に「道を踏み外した女（ラ・トラヴィアータ）」と付けました。原作を知らずにオペラを観た



人にも分かりやすいようにという配慮からのようですが、アルフレードとの恋により翻弄される悲劇のヒロイン、ヴィオレッタをよく表しているタイトルと言えるでしょう。

そして、この物語を彩るのがヴェルディの曲です。中でも主役ふたりの出逢いの場面で歌われる「乾杯の歌」は大変有名な曲です。アルフレードの歌に答えるように続くヴィオレッタの歌、そして広間にいる全員の大合唱へとなるこの歌は、華やかなパリを象徴しており、また何度聴いても圧巻です。

今回は、この「椿姫」の世界を感じることでできるCDをご紹介します。ショルティ指揮のコヴェント・ガーデン王立歌劇場管弦楽団による演奏で、主役のヴィオレッタを演じるのはアンジェラ・ゲオルグユー。当時、新星としてデビューしたゲオルグユーはこの録音がきっかけで国際スターの座を獲得しました。指揮をしたショルティも「ついに理想のヴィオレッタを見つけた！」と感激したと言われるほど。ヴィオレッタはヴェルディの作品の中でも存在感のあるヒロインで、恋愛に燃える様子から絶望のシリアスな歌まで心の揺れが大きく、演じがいのある役どころ。そのヴィオレッタを見事演じたゲオルグユーの歌声をお楽しみいただける、聴きやすくお得なCDです。

また、世界三大オペラの一つとも言われる「椿姫」は、マリア・カラスをはじめ多くのソプラノ歌手により歌われてきました。6月にはこの浜松でも上演されます。「椿姫」にはまった方は、ぜひ聴き比べに挑戦してみてください。お気に入りのヴィオレッタに出逢えるかもしれません。

〔2F 楽譜・CD売場〕 小木 すみれ



ちよつと気楽に もっと音楽を 04

「音楽をもっと気楽に楽しんでほしい、日々の生活に音楽を」というテーマで、近場で気楽に音楽を楽しめる素敵な場所をご紹介します。



取材日 / 1月27日 文・撮影 / (公財) 浜松市文化振興財団

この方々に
伺いました！

たむら きよし
田村 潔さん
スタッフの市川さん&松本さん



[田村さんプロフィール]
1954年 東京生まれ
幼稚園の頃、浜松へ転居。中学生の頃からラジオで洋楽に親しむ。
1974年 就職先の同僚が演奏するベンチャーズに影響され、フォークギターを始める。
1982年 自身のバンド「Olive's Step」でヤマハL.M.C'82シニア部門グランプリ受賞。音楽教室講師となる。
1992年 音楽講師と兼務で田村音楽教室を開校。ベース、音楽理論、エレキギター等各科を展開。
2000年 これまでの経験を活かし、珈琲紅茶専門店+音楽教室+ライブハウスJazz in "B^b"のオーナーとなる。

Jazz in "B^b"

喫茶店を始めるきっかけ

趣味でベースをやっている時、結成したバンドで出場したコンテストで偶然良い賞をいただき、そのご縁でヤマハ音楽教室のエレキベース講師をすることになりました。音楽教室は夜8時頃レッスンを終わってしまうのですが、平日に仕事をする生徒さんにとっては早すぎる時間です。夜9時、10時以降にレッスンを受けられないかという要望が多くあり、ヤマハ講師の時間外に別の場所で教えるようになりました。その後、当時の生徒さんだった今の大家さんから「これから建てる自宅の地下で音楽教室をやってみないか？」と願ってもないお話をいただいたのです。「それじゃあ」と始めたのがきっかけです。喫茶店を併設したのは、教室に来る子どもを送迎するお母さんが待合室がてらコーヒーを飲んだり、友達が遊びに來たりできる場所を、と考えたからです。



でした。音楽教室を続けながら、2年ほどコーヒーと紅茶の学校で学び、喫茶店をオープンさせました。

音楽教室を続けながら開店準備

音楽教室に加えて喫茶店のオーナーになったものの、喫茶の心得は全くなくて困っていました。その頃、教えていた生徒さんで、個人的にスイーツや紅茶の勉強をしていた方がいました。相談してみたところ、快くお店の手伝いを引き受けてくれました。今年で17年目に入りますが、彼女は最初からの大切なスタッフです。音楽の素養があってスイーツの知識もある、私にとってはうってつけのサポーター



週末だけのライブ空間

最初は喫茶スペースだけのつもりだったので、店内が外から良く見えるようガラス張りにしてもらい、プライベート空間を作る間仕切りなども作りました。喫茶店を始めることを周囲に話しているうち、知人から「ここでジャズを演奏できないか」と言われたのです。ジャズは好きで聴いていたし、僕自身も演奏するので、ライブを始めることにしました。当初は月に2.3本でしたが、現在では月に15～20本程度開催しています。ただし、あくまでメインは喫茶店。ライブは週末の夜のみで、昼間は喫茶店というスタンスはずっと変わりません。

「JAZZ」とは「天ぶら」みたいなもの

ライブを始めてから、ジャズに対する考え方がだんだん変わりました。クラシック、ロックなど

ジャンルがあってそれぞれの曲があるけれど、ジャズとはある曲を「JAZZ（即興＝アドリブ）」で演奏しているということ。よく考えてみると、これは例えば料理の「天ぷら」と同じようなもの。素材は何であれ、すべての素材を「天ぷら」という調理方法で料理しているだけなのです。童謡やクラシックなどを含めた全ての音楽を「JAZZ」で調理すれば「JAZZ」という料理になる。それは即ち「即興」に尽きると思います。その場限りのパフォーマンスと考えれば「スポーツ」もそうですね。以前は、僕の頭の中の「JAZZ」もレコード店にあるジャンルの1つみたいなイメージでしたが、今はそんなジャンルの区切りは不要だと思っています。即興落語や即興演劇、絵画から着想したピアノ演奏など色々なものをやってもらうようになりました。

ただ、王道のジャズでなくてもOK、と理解されてきたのはつい最近。まだまだ世の中はスタンダードジャズの考え方が一般的です。来てくれたお客さんと話しながら、ゆっくりと広めていくしかないと思っています。



ライブの様子 (2017.1.28)
木村百合子 & マチュー・ロフェ (ヨーロッパンジャズ・アコースティックデュオ)

コーヒーと紅茶で聴くジャズ

喫茶の時は明るいガラス張りですが、ライブの時は防音カーテンを閉めて少し雰囲気が変わります。お客様からは「女性が一人でも来られるから嬉しい」とお聞きしますね。ここは郊外なので車で来るお客様が多いのですが、お酒ではなくコーヒーや紅茶でジャズを聴く雰囲気を「調子が狂う(笑)」という出演者さんいれば、「一生懸命聴いてくれるところが好き」という方もいます。チケットの売れ具合はライブによって違いますが、あまり気にしていません。集客も大事ですが、全てではないと思います。無理せず長く続けるためには大事なことでないでしょうか。

主軸はずっと音楽教室

今では、音楽教室・喫茶店・ライブと3つを掛け持ちする私ですが、一番の主軸は音楽教室だと考えています。音楽教室は地下に2部屋のレッスン室が



あり、生徒さんは150人以上。音楽性がある信頼できる十数人の先生方にお任せしています。ベースは僕の担当ですが、ピアノやドラム、タップダンスなど科目は多岐にわたります。必要なら夜中でもレッスンができるよう、教室は24時間営業です。

運を味方に～ロマネコンティを飲むまで～

まだ見ぬ新しい方に、このお店をぜひ知っていただきたいですね。一演奏家として、何も知らない状態で喫茶店やライブの勉強をしてきた私ですが、まだまだ足りないと思っています。今は偶然うまくいっているだけで、先のことは計算できません。だからこそ、今のお客様を大切にしながらマイペースで進んでいきたいし、一緒に歳を取って、楽しんでもらえるのが一番ですね。昔は何でも自分で好き勝手に決めていて、考え方や体に余分な贅肉がついて

体調を崩した時もありましたが、喫茶店を運営することで色々なことに気付かされ、大変さを痛感しています。この歳でも頑張れば続けられるというのは幸せなことなので、努力できるこの環境を長く続けられたら嬉しいですね。いつか大好きなワインの最高級品「ロマネコンティ」を飲みたいと思いながら、常に目標を持ち続けるため、どこかで「一生飲まないぞ」とも思っているのです(笑)。



お店のいわれ

ジャズの教則本によく書いてある記号「B♭」（ビーフラット：チューニングキーはBフラットでの意味）を、軽い気持ちで店の名前にしたそう。起業する時、書類に「仮」で山ほど書いているうちに愛着が湧いてそのまま命名されたのだとか。「ジャズのイメージが強すぎるので…今なら絶対つけません！（笑）」と田村さん。

おすすめ



マスターブレンド 550円(税込) ショコラケーキ 411円(税込)
コーヒーを自分で焙煎する田村さん。自慢のケーキは、開店当初から16年間続くショコラ。一番大事にしているおすすめの逸品。



Coffee, Tea & Live & Music school
Jazz in "B♭"

〒432-3125
静岡県浜松市東区半田山5丁目16-17
TEL.053-435-5644

[HP] <http://b-flat.cafe.coocan.jp/>

イベントスケジュール

2017.3 ▶ 2017.6

HCFオンラインショップ

<http://www.hcf.or.jp/>

HCFオンラインショップをぜひご利用ください。
様々な公演のチケットが、24時間オンラインで購入できます。

- ★システム利用料0円・発券手数料0円
 - ★送料などの実費はかかりませんが、その他の手数料は一切なし。
 - ★クレジット決済 / 送料315円(全国一律)
 - ★代金引換 / 送料315円(全国一律) + 代引手数料315円(一律)
 - ★直接アクトシティチケットセンター窓口にての購入(現金のみ)もできます。
- 詳しくはHPをご覧ください。http://hcf.or.jp/

バンド維新2017

3.4(土) 13:30

■作曲家によるレクチャーと公開練習

- アクトシティ浜松 中ホール
- 全席自由:1,500円
- ※未就学児の入場不可



3.5(日) 14:00

■作品発表コンサート

- アクトシティ浜松 中ホール
- 全席自由:一般2,500円 学生1,000円
- ※未就学児の入場不可



- 文化事業課 TEL.053-451-1114

〈アクトシティ能・狂言プレイベント〉
これは知らなかった!
能・狂言のとおきおきの楽しみ方

3.6(月) 15:30

- アクトシティ浜松 大ホール
- 全席指定:500円
- ※未就学児の入場不可
- 8月27日に開催の「アクトシティ能・狂言」のプレイベントとして、能・狂言を楽しむための基礎講座
- 文化事業課 TEL.053-451-1114



(前回の様子)

第21回浜松国際ピアノアカデミー

3.3(金)~12(日)

3.3(金) 18:30

■オープニングコンサート
中村紘子
メモリアル・ガラコンサート

- アクトシティ浜松 中ホール
- 全席指定:一般3,000円 学生1,000円

- 出演:河村尚子
ボリス・ペトルシヤンスキー
ウラディミール・トロップ
奈良希愛



©Hiroshi Takaka

3.4(土)~10(金)

■公開レッスン

- アクトシティ浜松 研修交流センター
- 1レッスン1,000円



3.4(土) 19:00

■無料公開イベント シンポジウム

「“中村紘子音楽監督とピアノアカデミー”を語る」

- アクトシティ浜松 音楽工房ホール
- 入場無料(要整理券)
- 出演:真嶋雄大(音楽評論家)、アカデミー教授陣

3.5(日) 14:30

■無料公開イベント

「子どものための無料公開レッスン」

- アクトシティ浜松 音楽工房ホール
- 入場無料(要整理券)



3.7(火) 19:00

■無料公開イベント「ピアニストのための公開講座」

- アクトシティ浜松 音楽工房ホール
- 入場無料(要整理券)
- 講師:河村尚子
古屋晋一(音楽演奏科学者、「ピアニストの脳を科学する〜超絶技巧のメカニズム」著者)

3.9(木) 19:00

■第10回国際パデレフスキ・ピアノコンクール(ポーランド)
入賞者によるコンサート

- アクトシティ浜松 音楽工房ホール
- 全席自由:一般2,000円 学生500円
- 出演:イ・ヒョク、クシユリク・ヤクブ

3.11(土) 第1部10:30~14:00 第2部15:00~18:30

■ピアノアカデミーコンクール 予選

- アクトシティ浜松 中ホール
- 全席自由:一般1,000円 学生500円

3.12(日) 第1部13:30~15:00 第2部16:00~18:30

■ピアノアカデミーコンクール
本選

- アクトシティ浜松 中ホール
- 全席自由:一般1,000円 学生500円



3.12(日) 19:30~20:00

■ピアノアカデミーコンクール
表彰式・講評

- アクトシティ浜松 中ホール
- 入場自由



詳細はピアノアカデミーHPをご覧ください。

<http://www.actcity.jp/hacam/PianoAcademy/>

- 浜松市アクトシティ音楽院 TEL.053-451-1150

<http://www.actcity.jp/hacam/>

ジュニアオーケストラ浜松・ジュニアクワイア浜松
スプリングコンサート2017

3.12(日) 14:00

- アクトシティ浜松 大ホール
- 全席自由:500円 ※4歳未満入場不可
- 第1部:ジュニアクワイア浜松
「九ちゃんが歌ったうたー上を向いて歩こう」より 他
音楽監督・指揮:浅野武
- 第2部:ジュニアオーケストラ浜松
序曲「1812年」/ チャイコフスキー 他
指揮:渡邊一正
- 第3部:合同演奏
童声合唱組曲「あめつちのうた」/ 上田真樹
- 文化事業課 TEL.053-451-1151



浜松吹奏楽大会2017

3.25(土) 14:00

■第5回全国中学生交流コンサート

- アクトシティ浜松 中ホール
- 全席自由:一般1,000円
- 高校生以下入場無料(要整理券)
- ※未就学児入場不可

※高校生以下整理券はアのみ



3.25(土) 10:00~16:30 ※雨天中止

■プロムナードコンサート
●キララ(J R浜松駅北口広場)

3.26(日) 10:00

■第29回全日本高等学校選抜吹奏楽大会

- アクトシティ浜松 大ホール
- 全席自由:2,800円
- ※未就学児入場不可
- 文化事業課 TEL.053-451-1151



レクチャーコンサート

「美しい氷の祭典〜オンド・マルトノ六重奏のサウンドスケープ〜」

5.3(水) 14:00

- アクトシティ浜松 音楽工房ホール
- 全席自由:一般2,500円 学生(24歳以下)1,000円
- ※未就学児の入場不可
- 出演:ハラダタカシ ほか
- 浜松市楽器博物館 TEL.053-451-1128



New Artist Series アクト・ニューアーティスト・シリーズNo.108
「ダニエル・シュー ピアノ・リサイタル」

5.14(日) 15:00

- アクトシティ浜松 音楽工房ホール
- 全席自由:一般2,500円 学生(24歳以下)1,000円
- ※未就学児の入場不可
- 曲目:ベートーヴェン/ピアノ・ソナタ第31番変イ長調Op.110
リスト/「ドン・ジョヴァンニ」の回想 ほか
- 文化事業課 TEL.053-451-1114



©Chris McGuire



アクト・ワンコインコンサート2017 金子三勇士(ピアノ)

6.8(木) 11:30(12:30終演予定)

- アクトシティ浜松 中ホール
- 全席自由:500円(チケットレス)
- ※当日会場入口にて入場料をお支払いください。
- ※満席となった際は、入場をご遠慮いただく場合がございますので予めご了承ください。
- ※未就学児の入場不可
- 曲目: ショパン/夜想曲第20番嬰ハ短調「遺作」
リスト/ラ・カンパネラ ほか
- 文化事業課 TEL.053-451-1114



オペラ パレルモ・マッシモ劇場「椿姫」

6.14(水) 18:30

- アクトシティ浜松 大ホール
- 全席指定:SS席24,000円 S席20,000円 A席15,000円
B席10,000円 C席7,000円
シニア席10,000円(70歳以上・当日指定・5席相当)
学生席1,500円(24歳以下・当日指定)

※未就学児の入場不可

- 出演:
ヴィオレッタ:デジレ・ランカトーレ
アルフレード:アントニオ・ポーリ
ジェルモン:セバスティアン・カターナ
管弦楽:パレルモ・マッシモ劇場
管弦楽団・合唱団



デジレ・ランカトーレ



パレルモ・マッシモ劇場



アントニオ・ポーリ

チケット販売場所 **A**アクトシティチケットセンター **オ**HCFオンラインショップ <http://www.hcf.or.jp/> **チ**チケットぴあ
この情報は2017年2月15日現在のものです。都合により日時・金額など変更になる場合もございますのであらかじめご了承ください。



アクト・プレミアム・シリーズ2017 ～世界の名演奏家たち～Vol.1

諏訪内晶子(ヴァイオリン)&
ボリス・ベレゾフスキー(ピアノ)

6.27(火) 19:00

- アクトシティ浜松 中ホール
- 全席指定:S席6,000円 A席5,000円
学生席1,000円(24歳以下・当日指定)
- プレミアム・パスポート(全5公演通し券)
全席指定:S席23,000円(完売) A席19,000円(完売)
- ※未就学児の入場不可
- 曲目: ベートーヴェン/ヴァイオリン・ソナタ第5番「春」
R.シュトラウス/ヴァイオリン・ソナタ変ホ長調Op.18
ほか
- 文化事業課 TEL.053-451-1114 **A** **オ** **チ**

※特集1(P4～7)もご覧下さい。



©吉田民人



©Yuri Bogomaz

アクトシティ浜松友の会
ビバーチェクラブ 会員募集中!!

友の会年会費(税込)
一般会員:2,000円 クレジット会員:3,000円

特典
◎電話、インターネットでチケット予約(お席を選ぶことができます)
◎一般発売前にチケットの優先販売
◎財団の指定公演は、会員お1人様1枚に限りチケット代10%割引
◎文化情報誌及び公演チラシの郵送 ほか

お問い合わせ先 TEL.053-451-1115 vivace@actcity.jp

あなたのイベントを応援します!!

サポート事業
(助成金制度)

イベントカレンダー
掲載

チケット委託販売

後援申請

友の会向け
チケット委託販売

▼全ての情報はここから <http://www.hcf.or.jp/>

はまかろ NEO 情報満載!
・浜松+文化の今が見える!



音楽のある暮らし、はじめませんか?



無料

音楽図書館 ナクソスのススメ



ナクソス・ミュージック・ライブラリー(NML)は、クラシックを中心とする
CD約110,000枚が聴き放題のインターネット音楽配信です。



「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」は
指定管理者(株)図書館流通センターが行う図書館サービスのひとつです

ご自宅のパソコンで
音楽をたのしめます。

いろいろなジャンル
をたのしめます。

学生さんにも
おすすめです。

操作はとても簡単!
図書館で受けたIDと
パスワードを入力するだけ。

※音楽をパソコン本体に保存、CDに録音すること、スマートフォンでのご利用はできませんのでご了承ください。

おすすめポイント

01 | 検索しやすい

クイック検索、作曲家・アーティスト、ジャンル、レーベルと、さまざまな角度から検索ができ、おめあての音楽を簡単に、すばやく探すことができます。

02 | 特設ページの充実

吹奏楽特集、映画やCMで使われたクラシック、N響アーカイブスなど、特集ページを見るだけでも新たな音楽との出会いが! 追悼、生誕特集もあります。

03 | さまざまなジャンル

クラシックだけでなく、ジャズ、フォーク、ブルース、ノスタルジア、民族音楽、インストゥルメンタル、ゴスペル...
CD110,000枚を超える音楽を楽しむことができます。毎月新しい音楽が更新されています。

04 | 無料がうれしい

1回につき15日間のご利用ですが、お申し出いただければ、何度でもご利用できます。通常は有料ですが、図書館での発行は無料です。

お手続きは とても 簡単

図書館のカウンターに利用者カードをご持参いただき、「ナクソス」とお申し出いただけます。ユーザーIDとパスワードをお渡しします。

下記の指定管理者(株)図書館流通センター受託館で
取扱いしています

中央図書館駅前分室 ☎053-458-2180

南図書館 ☎053-452-1655

西図書館 ☎053-456-3379

東図書館 ☎053-464-2081

北図書館 ☎053-436-6646

南陽図書館 ☎053-426-1000

可新図書館 ☎053-449-1001

雄踏図書館 ☎053-596-5522

細江図書館 ☎053-527-0185

引佐図書館 ☎053-542-2118

三ヶ日図書館 ☎053-528-0151

流元町図書館 ☎053-422-0202

都田図書館 ☎053-428-0011

※浜松市内すべての図書館での取り扱いではございませんのでご注意ください。

舞台袖

浜松国際ピアノコンクールをモチーフとした長編小説「蜜蜂と遠雷」が第156回直木三十五賞に選ばれました。著者の恩田陸さんが描く出場者たちの熱演、ホールやロビーの情景、駅からの街並み(実際には架空の街ですが)に、「そうそう!」と何度も納得。いつかドラマ化や映画化が実現したら...と期待してしまいます。奇しくも直虎ブームの浜松。この追い風に乗って、浜松全体が盛り上がり注目される情報を今後も発信していきたいと思います。



アクトシティ浜松(施設のご予約)

〒430-7790 浜松市中区板屋町111-1
TEL.053-451-1111 FAX.053-451-1123

アクトシティ浜松(事業のご案内)

〒430-7790 浜松市中区板屋町111-1
TEL.053-451-1114 FAX.053-451-1123

浜松市アクトシティ音楽院

〒430-7790 浜松市中区板屋町111-1
TEL.053-451-1150 FAX.053-451-1123



クリエート浜松

〒430-0916
浜松市中区早馬町2-1
TEL.053-453-5311
FAX.053-453-5379



浜松市楽器博物館

〒430-7790
浜松市中区中央3-9-1
TEL.053-451-1128
FAX.053-451-1129



浜松科学館

〒430-0923
浜松市中区北寺島町256-3
TEL.053-454-0178
FAX.053-454-0184



浜松文芸館

〒430-0916
浜松市中区早馬町2-1
クリエート浜松4・5階
TEL.053-453-3933
FAX.053-453-3933

**浜松市旧浜松銀行協会
(木下恵介記念館)**

〒432-8025
浜松市中区栄町3-1
TEL.053-457-3450
FAX.053-457-3450



浜松子ども館

〒430-0933
浜松市中区鍛冶町100-1
TEL.053-450-9111
FAX.053-458-0300



浜松市浜北文化センター

〒434-0038
浜松市浜北区貴布祢291-1
TEL.053-586-5151
FAX.053-586-5153